

歴史と文化が薫るまちづくり事業 中間報告書

- 城、宿泊、交流をキーワードとしたまちづくり -

平成 21 年 10 月 6 日

魚 津 市

目次

1	モデル地域の特性とまちづくりへの考え方	2
2	モデル地域のエリア	5
3	地域資源	6
4	地域資源の連携方策	9
5	歴史と文化が薫るまちを作る役者たち	10
6	歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群	11
(1)	ソフト施策	11
(2)	ハード施策	11
7	歴史と文化が薫るまちの姿	14
8	歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール	15
9	年度別事業費、費用負担割合	16

1 モデル地域の特性とまちづくりへの考え方

(1) 魚津の由来

魚津の歴史・文化は、縄文時代早期(約6,000~10,000年前)西布施の長引野台地にある桜峠に始まる。のちに魚が多く集まることから人々が海岸近くに住むようになり、古来「魚堵(おど)」と呼ばれていたのが「魚津」になったとされる。

(2) 松倉城及びその城壘群について

松倉城(標高約430m)は、魚津市の南東部にあたる鹿熊字城山に位置する。城の範囲は約15万㎡と非常に規模の大きな山城で、県内においては、その規模や地域史の中での重要性から「越中三大山城」のひとつに数えられる。

城の構造は、細長い南北方向の尾根上を空堀(からぼり)で区切り、重要な4つの郭(くるわ)(本丸から4の丸まで)で構成された「連郭式山城」である。主郭(本丸部分、標高418m)は、県の指定史跡で、面積は約3,600㎡もあり、広い平坦面を設ける。本丸から見渡す眺望は格別で、西に富山市方面を一望し、東に魚津市内を望む。築城の時期は定かでないが、史料には、南北朝時代(14世紀前半)に登場することから、それ以前とも考えられる。

また、松倉城自体も広大な山城であるが、さらにこの松倉城を取り囲むように多数の支城や砦跡が点在し、ふもとの角川流域に広がっていたとされる城下町も含めた、広域な「松倉城壘群」を形成していた。山々が海方面に張り出している魚津独特の地形を生かして、山城や砦、館跡が同心円上に分布している。松倉城を基点として、水尾城・升方城・石の門は西からの前線ラインを形成し、陸海路・河川の交通の要衝として平野部の中央に魚津城を配し、東の前線ラインは天神山城となる。さらに早月川や布施川、片貝川も天然の堀の役割を果たしていた。

幾多の武将がこの城をめぐる争い、16世紀末までの約250年の長きにわたって、「新川郡の要」として重要な役割を果たしてきた。しかし政治機能の拠点が、平野に位置する魚津城へと移っていき、慶長年間(1596~1615)の初めには廃城になったといわれる。

魚津城は街道や港に近接した交通の要衝で、松倉城とは角川で結ばれていた。築城時期は定かではないが、少なくとも15世紀代には存在している。戦国時代の魚津城は、角川や鴨川(神明川)にはさまれた沼地(湿地)に築かれており、周囲に城下町が築かれていくのは、前田氏が治める江戸時代からと推測されている。

(3) 松倉城壘群の特殊性

国史跡の砺波市増山城跡は、巨大な丘陵上に築かれた最大規模を誇る山城であるが、松倉城のような広域な城壘群は形成されていない。また、山城が多い氷見市でも松倉城壘群のような城の配置はされていない。松倉城と多くの支城からなる松倉城壘群は、全国的に見ても特殊な存在といえる。

(4) 明治時代以後の魚津について

さらに明治時代の廃藩置県後には、短期間ではあったが新川県の県庁が大町地区に置かれ、富山県ができた後も新川地方の政治、産業の中心であった。また、大正7年には、日本の民衆運動の契機とされている米騒動が起き、魚津は「米騒動発祥の地」として広く全国に知られている。現在も米騒動が起きた場所である旧十二銀行跡と米倉が残されている。

(5) これまでの魚津市の取り組みと今後の課題

松倉城をはじめとした山城の保存状態は比較的良好で、土塁や空堀、石積みや、数々の平坦面を見ることが出来る。城内の郭や散策道は、地元の振興会が定期的に草刈を行い、見学者の便を図っている。

一方、平地にあった魚津城は堀や土塁などの遺構は埋め立て、または破壊され、残念ながら当時を偲ぶものは石垣に使われていた数個の石材のみである。現在、魚津城の跡地は大町小学校が建設されており、地元住民と学校、市が協力して、「魚津城の戦い」にちなんだ展示解説も行っている。

以上のように、松倉城をはじめとした城壘群は、魚津が誇るべき歴史遺産であり、郷土の歴史を語るシンボルである。これらの価値を一人でも多くの人々に、再認識してもらうためには、まず住民が地元にある城壘群を誇りに思い、子供たちに語り伝え、守っていく熱意と理解、協力不可能である。

従前より魚津市では、歴史・文化資源に対する整備として、文化財や観光資源として解説板や標識の設置を進めてきている。しかし、質、量ともにまだまだ十分とは言えず、住民はもとより魚津市を訪れた観光客が、魚津の歴史・文化を十分感じるための体制となっていない。

(6) 当事業の目指すもの

魚津の松倉城壘群は、旧新川郡を治める政治的・軍事的な要所として戦国時代以前に形成され、地域や住民を守るための歴史資源として現在に残されている。また、大正デモクラシーのきっかけとされる米騒動ゆかりの建物も残されている。しかし、時間的な差異や、地理的に離れていることから、それらの連携がこれまでは不十分であった。

本事業では、これら戦いの歴史に、漁師町としての市民性などをつなぎあわせ、一つの物語として完成させることにより、「魚津の歴史と文化と人」を市民や地域住民が主体とな

って、県民のみならず広く全国に発信していきたい。

そのための方策として、本事業計画の実施部分について検討する市委員会（後述）において、物語作成や情報発信などについて、市内の宿泊・観光業者や地域で活動するグループなども巻き込みながら方策を作り上げていきたい。

また、モデル地域に存在する地域資源について、今回の事業では、魚津に分散する歴史・文化資源を精査すると共に、魚津市での宿泊をとまなう観光客をメインターゲットとして歴史・文化資源を活用する体制の整備を、ソフト・ハード両面から進め、歴史・文化をキーワードとした長期的なまちづくりの計画策定を一層進めたい。

中心事業として、松倉城跡と支城の城壘群および魚津城跡といった点を、道路という線で結び、さらに米騒動発祥の地としての米倉をサテライトとして加え、宿泊関係者や地域住民なども関連付けて、魚津の歴史・文化の真髄ともいえるまちづくり事業モデルを提案する。

おりしも本年度はNHKの大河ドラマ「天地人」の影響で、魚津市民の歴史・文化に対する関心が高まっており、中でも地域住民の顕彰活動が活発化しており、本事業に対する理解と協力が、たいへん得やすいタイミングにある。

2 モデル地域のエリア

エリアは、市街地にある魚津城跡、山間地にある松倉城跡と天神山城跡を拠点とした。それぞれの拠点には近隣の歴史・文化資源や宿泊施設をサテライトとして配置し、それらをつなげた観光プランや、エリアを連携させた観光プランを宿泊客向けに提案することを想定した。この内容は、日帰り客にとっても満足できるものと思われる。



3 地域資源



魚津城跡・・・大町エリア

堀や土塁等、当時を偲ぶ遺構はほとんど残っていないが、NHK 大河ドラマ「天地人」放映の影響により、「魚津城の戦い」の地を訪れる観光客が増えている。地元大町地区の地域住民は、観光客をもてなすために、大町小学校と協力して、空き教室に資料館を設けた。

そこでは、魚津城の戦いのみならず大町地区の歴史を紹介した展示を行っており、今後も継続した活動が求められている。

米騒動発祥の米倉・・・大町エリア

米騒動発祥の地として知られる大町地区には、明治～大正期の旧十二銀行社屋と米倉が残っている。現存する米倉は老朽化が激しく、今年度の「みなとまちづくり事業」で補修が計画されており、民間所有者の協力を得ながら米倉を保存している。



寺院群・・・大町エリア

大町・村木地区には寺院がたくさんある。その理由として、魚津城の守備機能としての役割を担っていたためとも言われており、城跡の北側に集中している。

魚津城主の菩提寺であった照顕寺や、水噴きの龍のある桃源寺などが有名である。

これらを連携させた「まちあるきルート」の設定も可能と思われる。

てんこ水・・・大町エリア

鴨川の川底から湧き上がってきた伏流水を利用した江戸時代初期からの水道システムである。当時は鴨川の川底に水道管を引き、数十箇所に配水していた。写真のものが唯一現存する吐水口で、現在も水が流れているが、ほとんど使われていない。保存の適否について検討が必要である。

米騒動の発端となった井戸端での話し合いが、こうした場所で行われていたと考えられている。





松倉城跡・・・松倉エリア

城の中心部である本丸部分が県指定史跡であり、戦国時代末期に魚津城へ拠点に移るまで、新川地域の要として重要な役割を果たした。

魚津の特徴的な地形を利用し、ここを中心に山城群が形成されていた。背後には越中七金山の中で最大級とされる松倉金山があり、最盛期には約千戸の集落があったと言われている。観光の拠点として中心的な活用が可能と考えられる。



北山城跡・・・松倉エリア

松倉城の支城であり、規模は支城中で最大規模である。北山鉱泉の側に位置し、宿泊者の散策箇所として利用が可能と考えられるが、遊歩道などの整備がさらに必要である。

山頂は、夜景の見所とも言われている。



升方城跡・・・松倉エリア

本丸・二の丸の周囲は、幾つもの豎堀を巡らせた堅固な造りで、特に南西部分は 20 以上もの豎堀が集中する畝状空堀群が築かれ、この城の大きな特徴といえる。升方城跡のある丘陵上には、南升方城跡や水尾城跡、石の門など松倉城に関連した遺跡が並んでいる。



北山鉱泉・・・松倉エリア

1867年8月開湯。地元の北山村の仁右衛門が霊夢により神社の下から湧き出る水で、産後の肥立ちが悪く、病に伏していた瀕死の妻を救ったという伝説がある。湯治や子宝の湯として親しまれている。



天神山城跡・・・天神エリア

室町將軍足利義材が都の乱を逃れて小川寺に身を寄せた折、その守護神の菅公像（天神様）を祀ったことから天神山と呼ばれるようになった。天神山の頂部に本丸、二の丸が築かれ、魚津城の戦いの折には、上杉景勝がここに後詰したと言われている。近くには金太郎温泉があり、気軽に立ち寄れるスポットである。



歴史民俗博物館・・・天神エリア

天神山中腹にある市立博物館。農具や漁具などの民俗資料を展示した資料館と市内から出土した縄文土器など、歴史資料を展示した郷土館がある。現在、郷土館では魚津城の戦いを取り上げた展示をしており、多くの観光客が訪れている。歴史文化の発信場所として、継続的な取り組みが求められている。



金太郎温泉・・・天神エリア

1964年開湯。翌年、一軒宿が開業し、県内外からの観光客が多数訪れている。最大収容人員は500人。

日帰り湯もあり、地元住民からも親しまれているスポットである。

4 地域資源の連携方策

(1) 宿泊施設と連携した観光プランの提案。

魚津市を訪れる観光客やビジネス客の中でも、特に宿泊客に地域の歴史や文化を感じてもらうため、市内史跡などを連携させた観光プランの提案を行う。JR 魚津駅や北陸道魚津 IC、宿泊施設からのスムーズな誘導を行うことを目的としたサインシステムの整備をする。また、東海北陸自動車道の開通により宿泊を伴う新たな観光客の増加が期待されるので、市外の観光スポットなどとも連携した宿泊観光プランを提案する。

(2) 市民が魚津の歴史について語ることのできる土壌の育成。

「うおづ歴史読本」を作成し、市民向けに歴史教室を開催したり、宿泊・観光関係者や地域住民の歴史研修を行うことにより、地域の歴史に興味と理解を深め、訪れた観光客などに地域の歴史について説明できるようにする。地域の歴史を自慢できる住民意識向上のための土壌を育成する。

(3) 各エリア内及びエリア間が連携できる散策ルートの設定。

地域住民向けに、地域の歴史や文化を感じることのできるエリア内の散策ルートを設定・提示する。そのためには地形が実感できるような立体模型等を設置する。さらに、各エリア同士を連携させたルートを設定することにより、交流を促進する。

松倉城壘群の建物跡は残っておらず、これらの場所から見えるランドスケープとしての景色が大きな魅力である。今回、松倉城跡や魚津城跡に設置する予定の立体模型は、実際の地形に合わせて配置することで、古の武将たちが見たであろう景色に思いを馳せる場所とすることができる。

5 歴史と文化が薫るまちを作る役者たち

今後、市検討委員会を設置し、この事業の計画策定に対して指導助言をすることとしている。この検討委員会のメンバーは、有識者、地区代表、宿泊業関係者、交通業関係者、観光アドバイザーなどで構成されており、計画策定後の事業実施には各団体にも、参加・協力をしてもらう予定である。

現在、魚津城跡のある大町地区（「NPO 法人大町地域振興会」）ではNHK大河ドラマ「天地人」の影響により観光客が増えており、地域の歴史を見直す機運が高まっている。このような機運を松倉地区、天神地区にも波及させ、それぞれの地区で活動している地域団体を巻き込んだものとしていきたい。

ソフト事業で実施する「うおづ歴史読本の作成」や「歴史教室の開催」に当たっては、山城を研究テーマとしている市学芸員を始め、地元の「魚津歴史同好会」の協力を得ることができる。これらのソフト事業を通じて、まず関係地域住民や宿泊施設関係、観光業関係者が地域を訪れた観光客などに地域の歴史について説明できるようにし、地域の歴史を自慢できるような意識の土壌を育成する。将来的には、市民全体が“歴史と文化が薫るまちづくり”の主演となることを期待する。

6 歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群

(1) ソフト施策

ア 全体計画の策定(21年度、事業費2,500千円)

検討委員会経費、コンサルタント委託、地元調整費

イ 観光コースの設定、提案(22~23年度、事業費3,000千円)

パンフレット・地図の作成、観光プランの提案

パンフレット・地図は宿泊施設などからの「散策コース」を提案したものを予定。宿泊施設や駅、主要観光施設などに設置。WEB配信なども。観光プランは歴史への関心が高まっている現在のニーズに対応したもの。「温泉で泊まって、城跡を散策し、魚を食べる」といったプランを宿泊業者などと連携しながら提案。

ウ 歴史理解の促進(22~23年度、事業費3,000千円)

市民向け歴史教室の開催、うおづ歴史読本等の作成

うおづ歴史読本は、一年に一巻ずつ発行し、

「まぼろしの魚津城」

「自慢のお城、松倉城とその仲間たち」

「魚津で起こった米騒動」

「今は昔の道具たち」

と四年間を計画している。(いずれも仮題)

その読本の発行記念シンポジウムや読本を利用した市民向け歴史教室や地域での公民館・高齢者教養講座、学校・図書館・博物館などでの講座や企画展を開催。

(2) ハード施策

ア 解説板の整備(21~23年度、事業費26,000千円)

史跡自体の解説(平面解説版、立体模型)の設置

史跡に設置。史跡を訪れた人が史跡の全体像を理解してもらうために設置。立体模型の設置は地形を含めて把握してもらうため。また松倉城跡についてはすばらしい眺望を見ていただき富山県全体の状況を把握してもらうため、頂上部(本丸)に各支城などの方向や山並みなどが分かるように立体模型設置を計画。同様に、魚津城跡にあたる大町小学校の敷地内に天神山城や松倉城の方向を示す立体模型を設置。

イ 案内誘導標識の整備（21～23年度、事業費8,000千円）

観光客誘導のためのサインシステム整備

北陸道魚津IC及び国道8号を富山方面、黒部方面から車で魚津を訪れた観光客や宿泊客を松倉城跡などの史跡へスムーズに誘導する標識の設置。主要交差点などに設置。無機質でなく統一的なデザインを検討する。

ソフト施策のウとハード施策のア、イについては24年度以降も取り組んでいく予定である。

(参考) 21年度におけるハード整備の概要

場所	内容	数量(基)	金額(千円)
松倉城跡	立体模型付説明板の新設	1	6,000
	頂上展望風景の解説板新設	1	5,000
	各遺構やルートを表示板	10	1,000
天神山城	解説板設置	1	2,000
	各遺構やルートを表示板	10	1,000
魚津城	解説板新設	1	2,000
	模型作成	1	3,000
計			20,000

立体解説版のイメージ



現在の解説板



イメージ(今帰仁村のグスクの解説板)

7 歴史と文化が薫るまちの姿

- ・ 市民が地域の歴史、文化に誇りを持つことが出来る調査・教育システムが確立している。
- ・ 魚津の歴史文化を感じるために訪れた観光客に対して、史跡などへの誘導ルートや案内資料などが分かりやすく整備されている。
- ・ 城跡には立体模型を含めた解説板が整備されており、地形を含めた史跡の意義が感じられ、古から残された景色を見ることができる。
- ・ 希望する観光客に対しては、ガイドがついて案内・解説する。
- ・ 県内の城跡、史跡が連携し、富山県全体の歴史を感じることができる。



- ・ 日本に稀有な戦国～近代の歴史物語が完成し、市民・地域住民などが中心となって全国に発信しているとともに、それらの歴史資源を体験するため、多くの人々の交流が実現している。
- ・ 観光客は、地域資源と連携した温泉などの宿泊施設に宿泊しながら、現代の魚津の魅力とともに、観光客の視点から整備された歴史的案内資料・施設などにより、視覚・味覚・知識など五感をすべて満足できる旅を経験している。

8 歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール

		21年度			22年度			23年度			
ソフト事業	全体計画の策定	←→ 計画策定									
	観光コースの設定				←→ 関係機関との協議			←→ パンフレット、チラシ等の作成、配布			
	歴史理解の促進				←→ 歴史読本の作成、歴史教室の開催			→			
ハード事業	解説板の設置	魚津城跡				←→ 協議			←→ 工事		
		松倉城跡				←→ 協議			←→ 工事		
		天神山城跡				←→ 協議			←→ 工事		
		北山城跡				←→ 協議			←→ 工事		
		升方城跡				←→ 協議			←→ 工事		
		水尾城跡							←→ 協議		
	案内板の設置	大町・村木地区				←→ 協議・検討			←→ 工事		
		松倉地区				←→ 協議・検討			←→ 工事		
		天神地区				←→ 協議・検討			←→ 工事		
		その他地区				←→ 協議・検討			←→ 工事		

9 年度別事業費、費用負担割合

(単位:千円)

		事業費	負担 (上段:市 下段:県)
21年度			
ソフト事業			
全体計画の策定	コンサル委託(200万円)含む	2,500	500 2,000
ハード事業			
解説板の設置	説明看板(立体含む)	18,000	9,000 9,000
案内板の設置	ルート誘導板	2,000	1,000 1,000
計		22,500	10,500 12,000
22年度			
ソフト事業			
観光コースの設定	パンフレット等の作成	1,500	500 1,000
歴史理解の促進	うおづ歴史読本の作成	1,500	500 1,000
ハード事業			
解説板の設置	説明看板(立体含む)	4,000	2,000 2,000
案内板の設置	ルート誘導板	3,000	1,500 1,500
計		10,000	4,500 5,500
23年度			
ソフト事業			
観光コースの設定	パンフレット等の作成	1,500	500 1,000
歴史理解の促進	うおづ歴史読本の作成	1,500	500 1,000
ハード事業			
解説板の設置	説明看板(立体含む)	4,000	2,000 2,000
案内板の設置	ルート誘導板	3,000	1,500 1,500
計		10,000	4,500 5,500
合計		42,500	19,500 23,000